



菅波 茂

04年6月29日。AMD A魂と医療のプログラム(以下、ASMP)―国際会議2004が、岡山国際交流センター(岡山市)で開催された。それに先立って久米南町にある泰養寺にてASMP関係者による岡山空襲被災者の慰霊供養が行われた。このプログラムは、第二次世界大戦の戦地となったアジアの国々で、戦没者の人権については魂の永遠性を専門とする聖職者による合同慰霊祭を、戦争に巻き込まれた人々の家族にはAMD Aによる医療を通じた平和の追求を行おうとする、宗教者の方々との合同事業である。国際会議には過去のASMPの慰霊祭に参加していただいたカトリック、最上稻荷教、真言宗、天台宗、天理教、臨濟宗(五十音順)などの宗教者の方々、教団として海外慰霊を行われている黒住教や立正佼成会の方々、泰緬鉄道

犠牲者の慰霊を行っている永瀬隆氏、ミャンマーでの悲惨な敗走経験を語られた小田敦巳氏、ASMPの海外における協力者、そして一般の方々も多数参加された。特別ゲストとして橋本龍太郎衆院議員および熊代昭彦衆院議員からもお言葉を頂戴した。会議の主な内容は活動の趣旨と報告、将来の展望だった。

ASMPを提唱されたAMD Aインターナショナルの名譽顧問であり、元フィリピン医師会長でもある中国系フィリピン人のプリミティブ・チュア先生は、太平洋戦争中だった10歳の時にマニラの市街戦に巻き込まれ過酷な体験をされた。二度と繰り返さないために、戦争で亡くなった人達の霊を敵味方無く慰霊し残された人達の平和のために医療を提供することがASMPの趣旨であると説明された。AMD Aの役割は医療の実施である。慰霊祭の行われて

「魂と医療のプログラム」国際会議

いる国々においては既にAMD Aの医療プロジェクトも数々実施している。加えて、今後の医療プロジェクトとして「人材の育成」を考えている。医療従事者養成のための奨学金制度と小学校に保健室を提供する学校保健プロジェクトである。奨学金の最初の対象者はインドネシア。東インドネシアの医療を担当しているハッサスディン大学に学ぶ小さな島々出身の医学生達である。今月には、AMD Aインドネシア支部長であるフスニ・タンラ教授を中心に選考、運営委員会が発足する。

ASMPの関係する各国にもAMD Aインターナショナルの信頼すべき多くのメンバーがいる。彼等を中心にした同様の委員会を発足させ、徐々に各国において奨学金制度を開始する予定である。奨学金を受けた医学生達は医師になった時にはAMD Aの活動に参加する。AMD Aの次世代の誕生である。彼らによって、ASMPの理念のもとに、より多くの人達の疾病治療と健康増進のお役に立てると信じている。

なお、日本の学校保健は非常に価値のあるコンセプトである。ASMPの対象となっている多くの国々では教育システムと医療システムは全く別のシステムとして運営されている。小学生の時から病気になるための簡単な知識を教えると、本人のみならず家族にも啓もう普及活動の成果が期待できる。知識は財産である。日本の成功モデルが教科書である。この二つのプロジェクトは出来る限り各国の元の戦場に近い場所で開催するように企画したいと考えている。

戦争が歴史となるためには3世代100年間を必要とする。私達の父の世代に起こった不幸な出来事を新しい出会いに昇華させるため、がんばりたい。(アジア医師連絡協議会代表) 題字は筆者